

第4回王寺町総合計画審議会(兼 総合戦略懇話会) 会議録

日 時	令和4年11月24日(木) 14:00~15:30
場 所	やわらぎ会館 3階 小会議室2
出席者	<p>委 員 中川幾郎会長(帝塚山大学名誉教授) (順不同) 直田春夫会長職務代理(NPO政策研究所理事長) 北村達夫委員(王寺町議会議員) 井村知次委員(王寺町自治連合会会長) 佐野純子委員(王寺町観光協会アドバイザー) 東中有紀委員(王寺町教育委員) 平岡秀隆委員(王寺町副町長) 福井伊佐男委員(王寺町商工会会長) 池田満津子委員(町民公募) 横山奉典委員()</p> <p>王 寺 町 平井王寺町長、幸田総務部長 事 務 局 吉田政策推進課長、酒田総合戦略係長 (株)総合計画機構 今井氏、春田氏</p> <p>傍 聴 者 1名</p>
次 第	<p>1. 王寺町総合計画総合計画後期基本計画(兼 第3期総合戦略)の諮問について</p> <p>2. 町民ワークショップの開催について(報告)</p> <p>3. 住民アンケートの実施について</p>
<p>1. 王寺町総合計画総合計画後期基本計画(兼 第3期総合戦略)の諮問について 王寺町総合計画後期基本計画(兼 第3期総合戦略)の策定について、平井町長から審議会への諮問が行われ、諮問書が中川会長に手渡された。</p> <p>2. 町民ワークショップの開催について(報告) 資料2により事務局より説明。 ワークショップで出された意見は、後期基本計画策定時の参考にさせていただく。特に「役割分担(住民の役割)(地域の役割)」の部分に反映させる。</p>	
(委員からの町民ワークショップ報告に対する意見)	
委 員	<p>今回のワークショップで出た意見は、町のいい所、今後これをどうしていけばいいのか等、これまでの意見を踏襲していると感じた。協働、快適な土地利用、住環境、道路・交通など、3つのエリアで様々な課題はあるが、みんなの考えを合わせながら、いい所はうまく伸ばして、悪い所は改</p>

善していくことが重要だ。後期基本計画においては、これまでとは違い、ウィズコロナを意識する必要がある。

委員 今回のワークショップには3エリアとも参加した。若い人たちの参加がかなり多かったので心強く思った。先日、自治連合会で伊賀市の柘植地区に視察に訪れた。伊賀市に比べれば、王寺町は7平方キロの狭いまちであるが、狭いながらも地域を分けると問題点が違う、問題意識も違うことがはっきりしたと思う。

防災の問題、空家の増加、高齢化など福祉の問題は、全地域とも共通していたと思う。総合計画後期基本計画でそれをどのようにとらえていくか。地域ごとの問題点では、北エリアの久度地区の道路が非常に狭く、消防困難区域もある。その再整備のための協議会も立ち上げて進めている。ウィズコロナ、財政状況の悪化、少子高齢化は当然の前提と考え、その状況下でいかに町民同士の交流を図っていくか、交流の場をどのように形成していくか、若い人たちの意見を意識しながら今後の事業を考えていったらいいと思う。

委員 北・中央・南というエリアごとにやはり違いがあると思う。情報・ITデジタルの項目で、高齢者はIT化になかなかついていけないとある。住民同士のつながりにより、IT化の悪いところを補っていけないのか。

顔が見える町、「互近助」がある町との意見があるが、この「互近助」はすごく大切なこと。例えば、わんわんパトロールはパトロールという目的だけでなく、犬を連れて散歩をしている地域の人たちとのつながりもできていく。そういう本来の目的と違うけれども、すごく大きなメリットがあることを見つけ出していくことも大切なことだと感じた。

委員 それぞれのカテゴリーごとに、貴重な意見をたくさんいただいている。一つ一つの意見も大切にしないといけないと思うが、同じような声がたくさんあるものについては、早急に取り組んでいくことが必要と感じた。今の時代に合った行政が求められていると感じた。必要と判断したものに関しては変えていこうという姿勢を見せることが、満足度を高めることにつながるのではないか。

委員 王寺町主催で町民ワークショップを開催したが、住民の皆さんの意見をうかがうと、行政マンとしてはある意味つらいところもあるが、頼りたい期待したいところもある。

これからは行政が政策をつくって、それを住民に押し付けるという時代

ではないことは、職員みんなが分かっている。地域の方々の理解と協力を得ながら進めていけることと、やはり行政がリーダーシップをとってやらなければならないことを、はっきりと区別して行政に取り組んでいけるように、ご意見をしっかりと聞いていきたい。

委員

北・中央・南エリアでいい所・悪い所の意見が正反対ということもある。これをいかにしてイコールにしていけばいいのかと思う。一番大阪に行きやすいのは北エリア、南・中央はバスの便が悪く、本数が少ないなど、いろいろな意見がある。これを100%イコールにできるということはないが、南・中央エリアにも商店街をつくるような計画があってもいい。再開発の協議会にも参加しているが、小学校や中央公民館の跡地をどうするか。集まりやすく交流できるような場所を計画してもらえばと思う。美しヶ丘のグリーンスローモビリティの様な取組を、エリアごとに展開できれば、生活困難者や高齢者も利用できるのではないか。

委員

私は久度地区に住んでいるが、道路が広いがゆえに車庫替わりになっているようなところもある。そのような課題に対しては、ご近所さんとの交流を図るなど、私たち地域で何とかしていかないといけないと思っている。コロナが始まってすぐだったが、スケボーの問題で、若年層の人が集まってきて地域で不快な思いをしていたが、住民で国土交通省と掛け合い、看板を掛けていただいですぐに解決したこともあった。これからも小さなことを地域で解決していけるような人間関係を築けたらいいと思っている。

委員

王寺町で避けては通れないのが水害の問題。特に北エリアでは、「大和川が近く水害が心配、怖い」という意見が出ている。今年の9月16日NHKの夕方の番組で、大和川流域水害対策計画が今年5月に決まったと放送していた。王寺町では2017(H29)年の台風21号の水害で約100戸の家が水に浸かったと放送され、ハザードマップに色が塗られたところに家を新築した事例などもあった。平井町長へのインタビューでは、「極端に言えば町を全部どこかへ引越すしかない」「水害リスクと地域の活性化をどうバランスをとるのか」と発言され大変お悩みの様子だった。そこで、5月に決まった大和川流域水害対策計画の内容や進捗状況を王伸で伝えたり、説明会を開催してはどうか。水害対策の内容や工事の進捗状況を町民と共有することにより、無用の心配をなくしたり、防災会の具体的活動の動機付けになると思う。大水害に見舞われた兵庫県のある市長さんの話では、危機管理の鉄則は「逃げるな、隠すな、嘘つくな」

の3つだそうだ。今ある防災対策の情報を町民と共有することが大事だ。

会長職務代理

前向きな意見が多く出されている。このようなワークショップは、他の計画づくりにも応用できるので、町としても協働の取組として推進されたい。ワークショップでは、地域のデータを見ながら議論をしたことが良かったのではないか。データを見ながら議論をすると、地に足の着いた議論になる。

防災については、ハザードマップと重ね合わせると、自分の住む地域が水に浸かる危険があるのかどうか分かるので、非常に有効だ。福祉については、地区別の高齢化率を示せば、高齢化率は地区で大きく違っており、道を挟んで向こう側は超高齢化地域ということもある。そういうデータを見ながらきめ細かな対策を考えるのは非常に有効だと思う。

参画・協働、コミュニティについて、「世代間をこえて、つながる、集える、顔が見える町」「互近助」がある町のビジョンが出されているが、これにはまちづくり協議会の仕組みが有効だ。その潜在的な意識がある。IT化についていけない人がいることは、ある意味チャンスだ。IT化についていけない人に手助けをするのが、ご近所の若い人だと思う。そうすると多世代交流にも結果的につながる。そういうことも活用して、うまくマイナス面を利用してプラスにすることもできると思う。

「住み続けられる町」という将来像について、「住み続けられる町」「安心して暮らせる環境」が何か、その中身はアンケートで浮かび上がらせるような設問にしてはどうか。

川の上流から流れてくる水が汚いのは、下流域の宿命であり、広域連携が大事。水害の面も併せて、広く上流市町村との連携を進めることが必要だ。

会 長

町民同士の交流の場をもう少し豊かにしてほしいということが共通してあった。伊賀市の柘植地域と王寺町が共通していることは過疎だ。柘植は人口が過疎、王寺町は人間関係が過疎だ。コミュニケーションの過疎の状態をどのように克服するかという発想を持たない限り、外からの人を増やせば町が活性化するという発想では、かえって余計なコストがかかるのではないか。ディスコミュニケーションを克服するためのいろいろな設備が必要になったり、365日役所の窓口を開けてくれとかいうことになりかねない。

人が増えればいいという発想ではなく、コミュニケーションの密度を上げて信頼関係の本数を増やすことではないか。それは、まちづくり協議会の話でもあるし、住民同士のつながりをどうするかでは「互近助」を本当に実体のあるものにする、制度化する政策をとるべきではないか。

そうすると、北・中央・南エリアのまちづくり協議会方式は有効に機能するかどうか、きちんと点検しないといけない。そこで新たに生じる課題があるかもしれない。今までのように人間関係がしっかりと構築されている連合自治会のコミュニケーションの上に、若い人がどう関わってくれるのかということもある。

男性中心になっている地域社会に女性に入ってもらうには、女性差別に対する研修・学習も必要となる。上層部のリーダーは見識豊かでそのようなリスクは少ないと思うが、中堅から現場に関わっている方々には、学習機会が少なく、悪意のない差別発言が多いように思う。そういうリスクを回避する政策も必要になる。そういうことも予測して後期計画に入れておかないといけないのではないか。

ハード面での不満が中央エリア・南エリアで結構あるようだが、ハードで国や県、あるいは奈良モデル方式で、王寺町で何とかすることは何かをはっきり出したほうが良い。何ともならないことに関しては、その前提でソフト対応をしてもらわないと仕方がない。

初めからハザードマップで真っ赤になっている所に住んでいる人は、いざとなったら役所が何とかしてくれというのは本末転倒であり、その場合は「即座に逃げてください」しかない。大堤防を築くという話にはならない。行政でできるハード事業、住民自治でなすべきソフト、それを実行する人材育成（ヒューマン）、ハード・ソフト・ヒューマンそれぞれに対応した、団体自治の仕事、住民自治に期待されること、命にかかわることはきちんとシリアスに整理してはどうか。大和川流域の水害対策は、極めて厳しい問題意識を持っている。王寺町はそういう意味でハザードマップをもう一度見直したほうがいいかもしれない。大和川流域の水害だけでなく、局地的な線状降水帯が発生した時にどうなるかも気になる。これをもう少し立体的に整理すると「マズローの欲求5段階説」で言う、一番大事なことは命の安全、その次に生理的欲求つまり衣食住をいかに満たせるかが来るだろう。それを最重点において、さらに社会関係を豊かにする学習、人間関係を豊かにするレベルを上げていかないといけない。後期基本計画については、まずは安全と衣食住に関して、欠けていることはないかの点検をもう一度してみたい。

前期と条件が違うのは、義務教育学校が整備されたことだ。

それとまちづくり協議会の北・中央・南というエリア分けについて、もっと細かに単位を分けないといけないのではないかという気もする。

委 員

まちづくり協議会については、暫定的に3つのエリアに分けている。今後の議論の中で、2つでいいという意見が出るかもしれないし、もっと細かくしたほうがいいという意見が出るかもしれない。

3. 住民アンケートの実施について

事務局から説明

会長職務代理 インターネットでの回答を可能にするのは進歩だが、紙の回答と重複してしまうこともあり得るので、それを回避する対策を何か考えているか。

事務局 確かにその可能性はあるので、調査の依頼文で、重複を避けるようお願いすることを考えている。

会長職務代理 インターネットの回答では、同じ人が何度も回答してしまうことがある。意図的にされる場合と、意図せずに回答したかどうか忘れて念のためにと2度回答してしまうこともある。紙なら1部しか回答できない。留意はしておいたほうが良い。

事務局 回答が重複しないよう、対策を検討する。

会長職務代理 アンケートで大切なのは、それを何に使うかだ。アンケートは住民参加の意味もある。アンケートは書いたけれど、反映されないのではつらいが、それが計画に直結するかというとそれも難しい。そこが微妙で難しいところだ。

アンケート調査票について、

問1の性別は、最近の問題になって聞きにくいところがある。前回は、男性、女性、無回答で集計されている。そういう意味では、「3回答したくない」などの選択肢がいないのではないか。

問2「年齢」は、選択肢が年代になっているので、回答者に迷いが生じないように設問も「年代」とすべき。

問3「世帯」は、問2とクロスして集計する必要がある。「1. 単身世帯」が律として一番多いと思われるが、単身の中でも、学生など若い人の単身と、高齢者の単身では全然意味が違ってくる。属性が全く違うと考えたほうが良い。

問7の「職業」は、前回集計では職業のクロス集計がないので、これは必要なのかとを感じる。政策につなげるのに必要であれば残していいが、必要なければなくしたほうが良いのではないかと、慎重に考えてもらいたい。住宅の所有形態も聞く必要があるのではないかと。というのは、問14 住み続けたい意向と関連して、住み続けたいのはそこに持家があるからということが大きい。問14「3. 町外へ引っ越したい」とあるが、これも微妙な表現で、転勤の方や、学生は引越したくはないが引越さざるを得ないということもある。

問10、問11 インターネットは仕事で使っている場合と、そうでない家で

日常的に生活するうえで使っている場合を区別して考えたほうが良い。
問 15・16 に 3 つまで選択とあるが、3 つ選ぶ人もいれば、1 つ、2 つ選ぶ人もいて、集計する場合に難しい。

問 19 「6. 高齢者や障害者のサポート活動・・・」など、「障害者」の表記はこれでいいのか、王寺町で問題がなければそれでよいが、人権担当課に確認しておく必要がある

問 20・21 「協働」について、「(地域社会を構成する多様な主体がともに課題解決に取り組んでいくこと)」と説明されている、行政も多様な主体の中にももちろん入っているが、行政と任意団体、任意団体同士の協働、任意団体と企業の協働ということを明確にしておいたほうがいいのではないか。また、問 21 は、全ての人に聞いているが、「推進すべきでない」「あまり推進すべきでない」人にも聞くのか。その回答をどう解釈するのか、論理的につながりがわかりにくい。回答に制限をかけた方が良いのでは。

問 22 「取組の評価」について、「(1) 町の広報紙・・・」「(2) 町の広聴・・・」それぞれの満足度は聞けるが、そのどちらを優先したらいいかは聞けない。施策の個別には、満足度・重要度がわかるが、施策の優先順位が出るわけではないので、誤解を招かないように注意して扱わないといけない。

会 長 アンケートについては、職務代理から指摘があったことを再確認して、精度を上げていただければ。1 月発送予定なので、委員におかれては内容確認について私と職務代理に一任していただきたい。

4. その他

- ・町民ワークショップ(12/10 開催)について 事務局説明
- ・今後のスケジュールについて 事務局説明

閉会

以上